

# 「不登校予防と早期対応ツール」

各自治体での不登校予防と対策の取り組みを調べますと、次のような分析報告がしばしば見られます。

- 休み始めの早い段階から一人ひとりの子どもを注視し、その状態に合わせて働きかけていくことがより不登校の予防や回復につながるということが指摘される。その傾向は小学校において顕著である。
- 「不登校ではあるが、登校支援の対象にしなかった」ケースの回復率において、小学校の方が中学校より高かった。それゆえ小学校段階からの働きかけがより効果的である可能性が示唆される。
- 欠席理由が仮に病気であっても、初期段階から注意深く様子を見守りつつ必要に応じた対応が望まれることが示唆される。

各自治体はいろいろな仕組みを作って、不登校予防と対策に取り組んでいます。八王子市の場合では、そうした仕組みの成果として、子どもの出欠状況を調べて、「初期段階で子どもに目を向け校内で支援する」、「校内で情報を共有する」の2項目において、成果が「とてもあった」もしくは「少しあった」と評価しています。まだ欠席が長期化していない子どもも含めて、管理職が細かく把握すること、適応指導教室など校内外の支援関係者と担任らが情報共有を図り、早い段階で支援することの有効性が指摘されています。

子どもの登校状況を把握するために、【個人ファイル】（仮称）を一人ひとりの子どもに作ることの重要性が指摘されています。このファイルは、「個票システム」、「個別支援シート」などの呼び方もあります。このような仕組みに共通していることは、登校している時点での予兆の把握や対応が長期の欠席の予防や不登校予防につながるという考え方です。一般にこのような個人ファイルの活用は次のような利点があるとされています。

- 【個人ファイル】は、「校内で情報を共有する」という目的にそって役割を果たす。個人ファイルを通して対象の子どもについて事前に共通した理解ができ、話し合いがもちやすい。
- 【個人ファイル】は、病欠や比較的初期段階の子どもの場合、保鞭者からの事情聴取などを行いファイルに記録し、保護者を交えて対策を講じる際に作業などで有効である。
- 【個人ファイル】の電子データ化によって、文書作成の重複や死蔵を避け、「教育相談検討委員会」など校内組織の構成員や指導主事、そして保護者の間での円滑なコミュニケーションと情報の共有化を推進できる。

## 【不登校予防と早期対応ツール】

「不登校予防と早期対応ツール」は、関係者の間で、(1)早期の予防と発見と対応、(2)タイムリーな対応、(3)関係者間での円滑なコミュニケーションと情報の共有、という3つの方針でつくられています。このシステムを使つての具体的な予防や対策としては、以上のような校務を効率的に進めるために情報ネットワークを使つて、つぎのような支援を促進することを意図しています。

### ●文書作成支援

電話での聞き取りシート、家庭訪問時の保護者からの聞き取りシート、予兆リスト、生徒の実態把握シート、児童生徒個々に応じた手立て、対応策計画シート

### ●コミュニケーション支援

生徒メモの活用、校内会議支援機能

不登校予防と早期対応ツールは、場合によって個別の指導を必要とする子どもの学習支援のために、「個別の指導計画」の作成と具体的な指導へとつなげることができようように設計されています。不登校予防と早期対応ツールの設計で、下敷きにした資料は三木市教育委員会や明石教育委員会、八王子市教育委員会、熊谷市教育委員会などが公表しているものです。

